

## 都内のウメに発生するアブラムシの種類とその消長

竹内浩二・星 秀男・小野 剛・渡辺建司\*  
(生産環境科・\*西多摩農業改良普及センター)

---

【要 約】青梅市，立川市など都内のウメに発生したアブラムシの主要種は，ウメコブアブラムシ，ムギワラギクオマルアブラムシおよびモモアカアブラムシ類似種であった。また，晩秋期にはモモアカアブラムシ類似種による芽基部などへの産卵を確認した。

---

### 【目 的】

プラムポックスウイルス (PPV) はアブラムシにより媒介されるため，本虫の防除は PPV まん延防止の基本的かつ最重要対策である。しかしながら，国内での PPV 媒介アブラムシの種類や発生消長などの詳細については未知であるため，都内のウメに寄生するアブラムシの発生実態について明らかにし，PPV 防除の基礎的な知見とする。

### 【方 法】

- 1) 定点巡回調査：PPV 発生域の青梅市と未発生の立川市・青梅市（農総研）の圃場において，ウメに寄生するアブラムシの種類と寄生程度を概ね 1 週間間隔で調査した。
- 2) トラップによるアブラムシ有翅虫の調査：上記ウメ圃場のうち 5 圃場に黄色水盤（内径 22×高さ 15 cm，地上高 0.7m に設置）を設置し，捕獲された有翅虫を計数し記録した。

### 【成果の概要】

- 1) 発生種：4～12 月にかけて調査 7 圃場のウメに発生を確認したアブラムシはウメコブアブラムシ，ワタアブラムシ，ムギワラギクオマルアブラムシ，ユキヤナギアブラムシ，オカボノアカアブラムシ，モモアカアブラムシ類似種の 6 種であった（図 1）。このうち，ウメコブ，ムギワラギクオマルは全ての圃場でも発生が見られ，コロニーが大きく，吸汁被害も激しかった。モモアカ類似種の発生は青梅市の 2 圃場に限られた。ワタ，ユキヤナギ，オカボノアカは，一部の圃場でのみ確認され，発生も散発的であった。
- 2) 発生消長：調査を開始した 4 月下旬の青梅市（農総研）圃場などでは，ウメコブの新葉部への寄生があり，5 月下旬まで続いた。5～7 月までムギワラギクが見られた（図 2）。10 月中旬に青梅市の PPV 発生圃の一部でモモアカ類似種の有翅虫の飛来が始まり葉の裏で無翅虫を産仔した。その後，11 月上旬には有翅虫♂と無翅虫♀の交尾が見られ，11 月下旬には細い枝先の芽の基部などに産卵を確認した。
- 3) 黄色水盤および黄色粘着トラップの有翅虫調査：黄色水盤への捕獲数は 4 月下旬～7 月上旬，9 月下旬～12 月上旬に多く推移した。しかし，捕獲されたアブラムシはウメに発生が確認された種以外の占める割合が大きかった。（図 3）。
- 4) まとめ：ウメに発生した主要アブラムシはウメコブアブラムシ，ムギワラギクオマルアブラムシおよびモモアカアブラムシ類似種であった。このうち，ウメコブは海外において PPV 媒介能などの知見がない。また，モモアカアブラムシ類似種は頭部および角状管の形状などが既知種と完全に一致せず種確定にはさらに検討を要する。今後，晩秋期に産卵された卵の孵化時期，開花期のアブラムシの動向などについて調査を継続する。

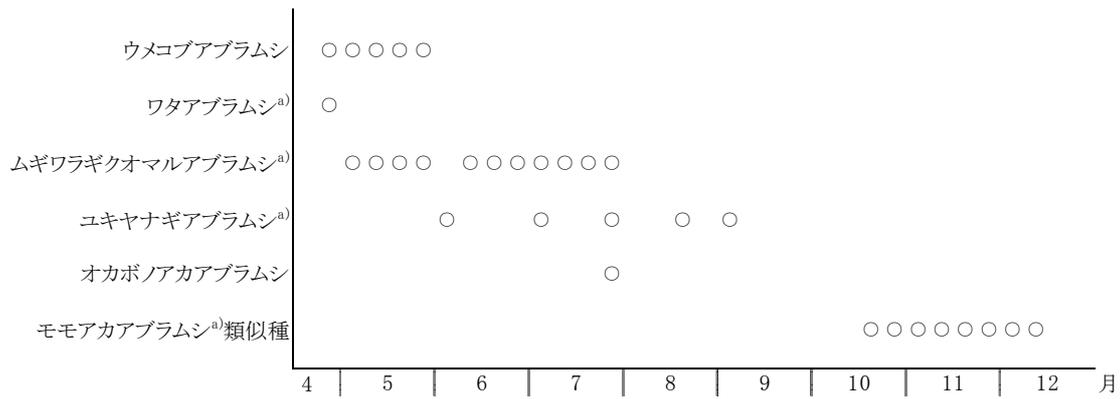


図1 ウメに発生したアブラムシとその消長(青梅市・立川市, 八王子市, 2009年4月20日~12月25日)

a): 国外でPPV媒介能が確認されているアブラムシ

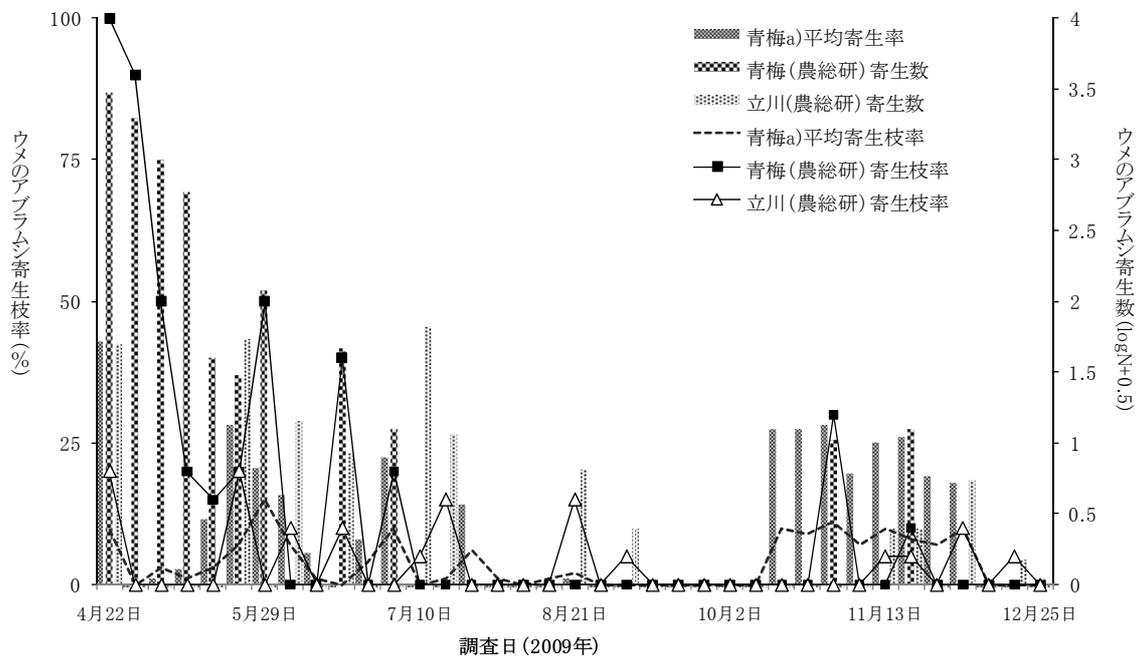


図2 ウメ枝葉へのアブラムシ寄生数と寄生率の推移 (20枝あたり)

a): PPV 発生地域内 5 圃場

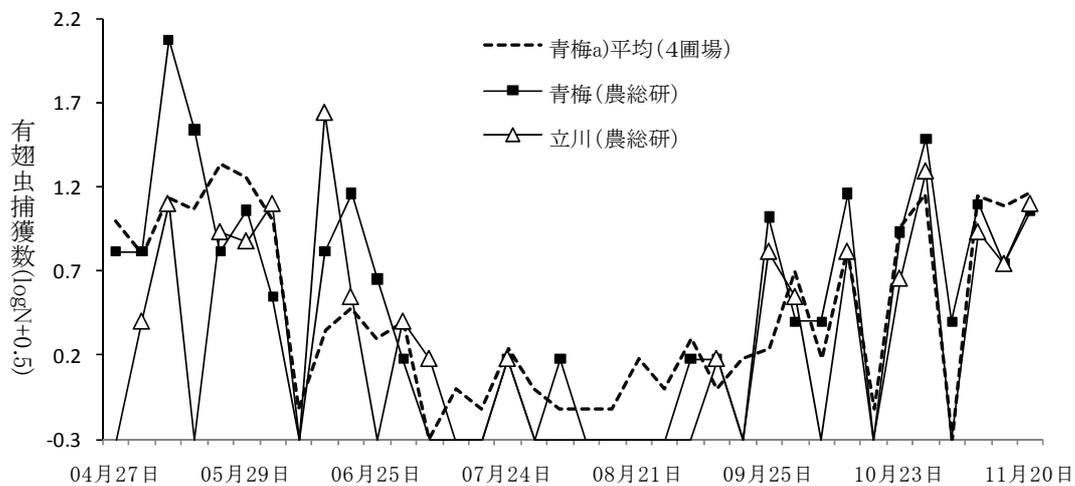


図3 黄色水盤のアブラムシ有翅虫捕獲数の推移 (7日間隔)

a): PPV 発生地域内